色彩学　第1巻　第1号　2022年　35－41

研究会旬間（研究会大会）報告

令和３年度秋の研究会旬間（研究会大会）報告

Report on the CSAJ Study Groups Meeting 2021

令和３年度研究会大会実行委員会
Executive Committee of the CSAJ Study Groups Meeting 2021

■はじめに

新型コロナウィルス（COVID-19）の流行にともない，オンライン開催を余儀なくされた昨年度の研究会大会ならびに今年度の全国大会を受け，研究会大会を開催できるかどうかは予断を許さない状況でした．

日本色彩学会の全国大会・研究会大会を対面開催で行う場合，通常200～300名の参加者を想定して，会場・開催時期の選定が行われます．会場費の節約や準備を円滑にすすめるため，例年は大学等の教育機関の施設を会場にお借りすることが多く，実行委員長を含む実行委員会を引き受けてくださる機関の存在が不可欠です．しかしながら，筆者の所属機関もそうですが，COVID-19の感染を予防する観点から，外部への施設の貸し出しは，現時点（2021年末）においても，禁止あるいは厳しく制限している機関がほとんどです．

このような状況において，全国大会の直前の6月13日，研究会主査会議において，以下のコンセプトで研究会大会を開催することが了承され，筆者がまとめ役を仰せつかることになりました：

- 全面オンライン形式で開催することとし，会場の確保は行わない．
- 各研究会が単独あるいは合同で企画を立案し，日程調整をやりやすくするため，1週間から10日程度の期間内に実施する形とする．

開催期間は当初11/19～28の10日間と定め，ここから「秋の研究会旬間（じゅんかん）」という呼称を決めたのですが，結果としては11/20～27の8日間ということになりました．（「週間」のほうがよかったですね…）

秋の研究会旬間の行事は，最終的には以下の６つとなりました．

- 色彩科学系５研究会（画像色彩研究会，感性･データ科学・コスメティクス研究会，視覚情報基礎研究会，色覚研究会，測色研究会）による合同研究発表会（11/20（土））
- 教育普及委員会による『新編色彩科学ハンドブック』解説講座プレイベント（11/21（日））
- 美しい日本の色彩環境を創る研究会・くらしの色彩研究会共催によるオンライントークイベント「色は世界を駆ける，色を未来に架ける」（11/21(日)）
- 交流会（11/21（日））
- 色彩教材研究会による研究発表会（11/23（祝））
- 環境色彩研究会による試験的WEBミーティング特別編（11/27（土））

厳しい財政事情の折，研究会大会の経費は当初予算には計上されていません．大会単体で経費をまかなえるように，参加費の設定，参加人数の見積もり，必要経費の精査，大会参加を呼び掛ける広報など，ひとつも気を抜かずに準備を行なう必要がありました．おかげさまで，結果としてはほぼ昨年並みの参加登録をいただき，若干の黒字を計上することができました．これも，各企画の内容の充実に取り組んでくださった研究会ならびに積極的にご参加いただいた会員のみなさまのおかげと，深く感謝しております．

現在の研究会大会は研究会が主体となって運営していますが，その大多数が小規模であり，少数の幹事のボランティア精神に依存して成立している状況があります．学会は会員の互助組織であり，営利組織のようなサービスの提供には向いていません．“学会から何かを得る”ためにはなによりまず参加することが必要です．いつの日かコロナ禍を打ち破って，ふたたび直接お会いしてイベントを開催できる日のために，引き続き会員のみなさまのご支援をお願い申し上げます．

（鈴木卓治　実行委員長／画像色彩研究会）

■色彩科学系５研究会合同研究発表会

11/20（土）13：30～17：00

色彩科学系５研究会による合同研究発表会は，2つのセッションと１つの招待講演をオンライン形式（Zoomミーティング）で開催した．研究発表の件数は，コロナ禍の影響もあり，例年に比べて大幅に減ってし

まい，招待講演を除くと合計８件と少なかった．そうした状況にも関わらず，多くの参加者が集まり（20 日 15 時の時点で 95 名），また非常に興味深い発表と活発な討議がなされた．セッション２後には，登壇者および Zoom 参加者の中から，承諾を得たメンバーで集合写真（グループフォト）の撮影も実施した（下図）．

（坂本 隆　感性・データ科学・コスメティクス研究会）

合同研究発表者参加者によるグループフォト

◆セッション１

セッション１では，主に物体の質感に関する発表が３件，色の恒常性に関する発表が１件，合計４件の発表が行われた．千葉大学の平岡らは，「評価方法の違いによる物体の光沢感スコアに関する実験的考察」と題し，自然環境の太陽光下で，複数観察者による物体の質感に関する，光沢の見えの違いのばらつき度合を求めた．東京工業大学の清川らは，「半透明感を生起させる画像情報の解明 - 光沢成分と陰影成分を用いたモデル化」と題し，CG 画像を応用した，質感に関わる半透明感の研究発表を行った．実験手法に独自性があり，発表内容も良く纏まっており，半透明感に関する知覚モデルも興味深く，本研究は今回の合同研究発表会の中で，優秀発表奨励賞を受賞した．関西ペイントの小野らは，「自動車ボディカラーにおけるホワイトパールの研究」と題し，３コートパール塗色の白さの追求に関する研究発表を行った．計測及び経験者による観察結果を盛り込んでおり，興味深い．千葉大学の杉山らは，「物体検出を用いた色の恒常性ネットワークの精度向上の研究」と題し，異なる照明光下での画像変換をニューラルネットワークで行う際の，物体と背景の画像再現の不備を補う方法について取り組んだ研究発表を行った．いずれの発表も大変興味深く，多くの質疑が聴講者よりなされた．応答を含め，議論を消化するには，やや時間不足であった．

（大住雅之　セッション１座長／測色研究会）

◆招待講演

横浜国立大学の岡嶋克典教授に「質感と色の５次元理論」というテーマでご講演いただいた．ご講演は，質感を色（3 次元）と位置情報（2 次元）の５次元として捉えるという切り口であった．まず質感については，空間的に分布する色情報から質感を捉えようとすると大量のデータになるため，その２次元構造を画像統計量に置き換えることで表現し，制御するアプローチが取られると解説された．画像統計量を利用した研究の例として，野菜や肌の画像の輝度統計量を変化させることで鮮度や年齢が変化して見えることや，人工物の退色や食品の質感の操作等が紹介された．その後，色の見えの話題に移り，モニタと印刷物等の異デバイス間の色の見えの違いに注目した研究が紹介された．モニタと印刷物の分光強度分布を一致させた完全等色条件にすると見えはほぼ同じになる（100% 等色する）．このことから，デバイス間の色の見えの違いは，分光分布が異なる条件等色の問題であることがわかった．その原因として，色知覚における LMS 錐体の分光感度の個人差だけでなく，ipRGC（内因性光感受性網膜神経節細胞，メラノプシン細胞）の寄与も少なくないことを示す研究結果が紹介された．様々なデモンストレーションも含めて盛りだくさんの内容で，非常に興味深く今後の質感や色覚研究の発展に対しても示唆に富むご講演であった．

（溝上陽子　招待講演座長／色覚研究会）

◆セッション２

セッション２として４件の研究発表が行われた．

- 色覚異常の色弁別に対する錐体感度シフトモデルの検証（小野崎優花，佐藤弘美，溝上陽子（千葉大学大学院））
- 色覚の多様性に配慮した安全色のリスク認知に関する予備的検討―高齢者における評価―（落合信寿，近藤寛之（産業医科大学））
- 絵画画像の特徴的色彩領域に基づく再帰的階段関数系による色彩分析における領域分割の考察（室屋泰三（国立新美術館））
- 素数と色彩調和論（4）（太田哲（洋画家））

前半２件は人間の色覚に関わる発表，後半２件は数学を用いた色彩研究の発表であった．いずれも挑戦的な内容であり，活発に質疑が行われた．ぜひエビデンスを重ねて査読論文にまで結び付けてもらいたいと感じる発表もあった．

（鈴木卓治　セッション２座長／画像色彩研究会）

◆優秀発表奨励賞

研究会大会における優秀発表奨励賞は，合同研究発表会を主催する複数の研究会（今大会では5つの研究会）が主体となって授与し，優秀な研究発表をした登壇者を奨励する表彰制度である．全国大会で授与される発表奨励賞との差異は，40歳以下の登壇者までを受賞対象としていることである．研究者として自立を目指す若手研究者を奨励し，一流の研究者として羽ばたいて欲しいという願いが込められている．

本年度は4名の登壇者が審査対象となり，10名の審査員による厳正な審査を行った．その結果，発表番号02番の清川宏暁さん（東京工業大学工学院情報通信系「半透明感を生起させる画像情報の解明―光沢成分と陰影成分を用いたモデル化―」）に優秀発表奨励賞を授与することが決定した．

本年度の合同研究発表会は，コロナ禍の影響もあり，発表件数は例年よりも少なかったが，そうした中にあっても，優秀発表奨励賞にエントリーした登壇者は，総じてクオリティの高い研究発表をしている印象であった．特に受賞者の発表は，各評価項目でバランス良く評価を得ており，他の発表者より一歩抜きん出ていた．また各審査員からは，目の付け所が良いこと，様々な応用が想像でき将来の成果に期待できること，実験の手法が大変面白く評価結果以上に他の発表より抜き出ていること，等についてコメントが寄せられた．

優秀発表奨励賞の審査報告は交流会の場においてなされ，受賞者による挨拶なども執り行われた．また表彰状と盾は，受賞者宛に後日郵送された．

（坂本 隆　優秀発表奨励賞審査委員長）

■『新編色彩科学ハンドブック』解説講座プレイベント

11/21（日）11：00～12：00

教育普及委員会では色彩に関する教育をより多くの方に広めるべく，今年度から様々な講座企画を進めています．色彩科学に関する広範な内容がまとめられた書籍である「新編色彩科学ハンドブック」は，各トピックの専門性を持っていないと少し難しく感じるのも事実です．そこで，当委員会では解説講座を企画致しました．ただ，解説といってもイメージが付きづらいこともあるかと思いますので，2021秋の研究会大会旬間で講座企画のプレイベントを開催致しました．

プレイベントでは，2021年度中に開講が予定されている次の2つの講座についてデモ講義を行いました．

- 第7章：色彩調和論
  酒井英樹先生（大阪市立大学）
- 第19章：カラー画像の情報処理
  富永昌治先生（長野大学）

第7章：色彩調和論では，ご講演下さった酒井先生は該当章の執筆者である納谷嘉信先生と共同研究などもされていたという経緯から，ハンドブックには掲載しきれていない，章の内容に関するカラースライド等を交えてご講演頂きました．活字による説明を可視化して捉えることができ，より内容の理解が深まる講座となりました．

第19章：カラー画像の情報処理では，ご講演下さった富永先生はご執筆にも関わっていらしたこともあり，基礎から発展的な内容までを「色」を使用したスライドを交えて丁寧に解説して頂きました．

60分という短い時間のイベントでしたが，非常に濃密な内容となり，82名の方にご参加を頂きました．どうしても本文中では掘り下げることのできない先行研究の紹介や，「色」を使用して示す，刊行後の内容についての補足など，大変充実した内容のイベントとなりました．　（若田忠之　理事・教育普及委員会）

■オンライントークイベント「色は世界を駆ける，色を未来に架ける」

11/21（日）13：00～16：00

美しい日本の色彩環境を創る研究会（LOJ）とくらしの色彩研究会（LC）は上記のイベントを2部構成で開催し，98名と多くの方にご参加いただきました．

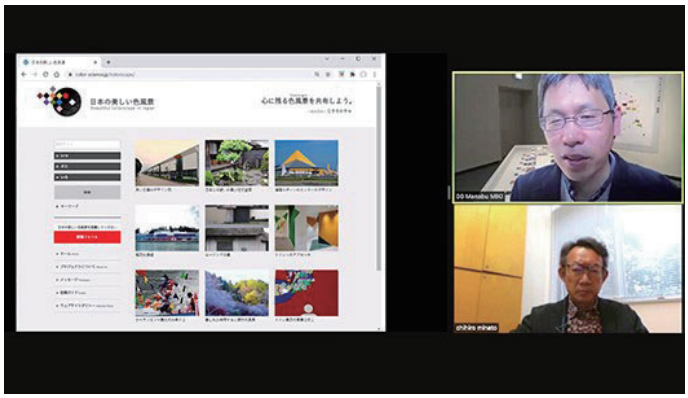
◆第1部：色は世界を駆ける

第1部（LOJ企画）では，「レオナール・フジタの色彩」を三木学氏に，「日本の美しい色風景，世界の美しい色風景」を港千尋氏にお話いただきました．

三木氏は，今年，ポーラ美術館での藤田嗣治の展覧会で作品の色彩分析を担当された時の資料や写真をもとに，透明感のある「乳白色の肌色」について，故・平井経太氏による科学的な色補正の話題も交えながらお話されました．続く港氏は，三木氏とテンポの良いトークを交わしながら，世界各地の街の写真を次々と紹介されました．解説は色の説明にとどまらず，歴史や社会的背景，地域の人々の生活，文化，音楽などにも及び，多くのメッセージを含んだものでした．地域が変われば美しさの基準が変わるというのは，多様性をテーマとする今回のトークイベントの骨子でもあり，第2部への伏線ともなりました．

『日本の美しい色風景』プロジェクトの立ち上げに

関する紹介の中，赤い瓦屋根の風景の写真では，三木氏の呼びかけでこの写真の撮影者である永田泰弘氏もトークに加わりました．状況説明の言葉を添えることで，一枚の写真から受ける印象が深く心に残り，日本人の「心の原風景」につながるようでもありました．また，研究会旬間中は，誰でもパスワードなしで色風景を投稿できるようにし，一般の参加者へも呼びかけを行いました（下図）．



『日本の美しい色風景』サイトの紹介

◆第２部：色を未来に架ける

第２部（LC 企画）の「多様性と色彩―どの人も困らない，どの人も傷つけない色とは？色覚とジェンダーの視点から読み解く―」では，『色弱が世界を変える』著者の伊賀公一氏と，メディアの視点からダイバーシティを考える疋田万理氏のお二人をゲストに迎え，色弱模擬フィルタ「バリアントール」開発メンバーの一人である篠森敬三氏による進行でディスカッションを行いました．

この企画のきっかけは，くらしの色彩研究会のオンラインセミナーでした．５月と６月にそれぞれ行った，疋田氏と伊賀氏のセミナーの中に見出した「多様性と包括性」という共通点を，教育やアートに関連する分野に活かせないかと考えました．

ゲストのお二人は，まったく異なる分野かつ年代も大きく異なりますが，現状を変えていこうという熱意と行動力の大きさが魅力でした．そして，この大きなエネルギーの間に入って，トークを導くファシリテーターを探すことが要となり，それを篠森氏に依頼しました．３者の初顔合わせは，個性の違いを活かしながら着地点を模索する内容の濃い時間でした．

イベント当日は，篠森氏の進行により，ゲストの背景にある共通性に触れながらの意見交換が，さまざまに展開されました．みんなが困らない，不快にならない色を選ぶことは，果たして可能なのか…という問いかけには，ようやく社会に浸透し始めたカラーユニバーサルデザインに比べると，ミレニアム世代の疋田氏が問うジェンダーやパーソナリティの問題の解決はまだまだこれからという方向性が示されました．「多様性を受け入れ認め合う」ことは，色彩においても大切なテーマであると感じられる，生き生きとしたトークイベントになりましたこと，登壇者の皆様に心よりお礼申し上げます．また，多様性への対応策の一環として，伊賀氏の提案から学会初の試みである，トーク音声の文字表示を行いました．このトークイベントが社会に役立つことを願っております（下図）．

（祖父江由美子　くらしの色彩研究会）

「多様性と色彩」伊賀氏，疋田氏，篠森氏による
ディスカッション

■交流会

11/21（日）16：00 ～ 18：30

LOJ&LC 研究会のトークセッションに引き続き，交流会を開催いたしました．各自飲むもの食べるものを用意して行う，Zoom を使ったバーチャル交流会です．

交流会の最初に，参加者のみなさまに以下の告知を行いました．

- ５研究会合同研究発表会優秀発表奨励賞の発表（坂本隆（審査委員長））
- Most Impressive Color の募集ならびに International Color Day の催しについて（高田瑠美子（理事・教育普及委員会））
- 「新編色彩科学ハンドブック」解説講座について（若田忠之（理事・教育普及委員会））
- コラージュ研究募集について（眞鍋佳嗣（副会長・学術委員長））
- 第 53 回全国大会 ‘22［名古屋］について（羽成隆司（第 53 回全国大会実行委員長））

つづいて，Zoom のブレークアウトルーム機能を使って，いくつかのグループに分かれておしゃべりを

楽しみました.

18：30までの予定でしたが，たいへん盛り上がり，最終的に会議室を閉じたのは19：00で，それもかなり無理やりにおしまいにさせていただきました．さあ2次会3次会？というふうにいかないのがバーチャル交流会の弱点かもしれません．楽しい時間を過ごした半面，1日も早くコロナ禍が収束して，対面で交流会を楽しむことができる日を祈らずにはいられません．

（鈴木卓治）

■色彩教材研究会　研究発表会

11/23（火・祝）14：00～16：00

色彩教材研究会ではベテランの先生方と新人の方々を含め下記の6名の登壇者に発表して頂きました．

①園田好江：韓国の伝統美「丹青」（タンチョン）の色彩に関わる文献と視察調査

②安岡義彦：持続可能なCMF価値創出についての考察と提案

③千田道代：尾形光琳作「風神雷神図」古風翻案の試み

④浅野　晃：ブラウザ上での回転混色のシミュレーション

⑤瀧川優子：和紙千代紙の歴史の色と図案柄～絵師・画家たちの挑戦～

⑥吉村耕治：日本の美意識の多様性～言語文化論の視点から～

日本色彩学会誌にアブストラクトを，発表予稿集をオンライン会場（参加登録者限定Webサイト）に，それぞれ掲載しました．予稿集に当たり，初の試みであったため「新規性」に配慮し，文科系の研究会として特に陥りやすい「著作権侵害」に気を配りました．参加者は61名と大盛況で，温かな雰囲気の会だったとのお褒めの言葉も頂きました．

参加者によるグループフォト

多種の分野からの発表だったため，参加者にとっては，おのおの良く研究され聞きごたえがあり，発見の多い発表であった，また，自分の研究内容と関連している部分もあり，研究を深める上での糸口になった，とのご意見もありました．登壇者にとっても，異なる分野からの発表に刺激を受け楽しめた，とのご感想も頂きました．

全国大会での発表のハードルは高く，いち研究会会員としては，発表を躊躇する場面は多々あります．今後も，自らの興味を深め探求し研究を続けている多くの一般の会員に対して，発表できる場を提供し，後押しする役割を担う研究会であり続けたいと感じています．

（三本由美子　色彩教材研究会）

■環境色彩研究会　試験的WEBミーティング特別編

11/27（土）　10：00～12：00（午前の部）

14：00～16：00（午前の部）

環境色彩研究会では，「試験的WEBミーティング特別編」と題する企画を行いました．

◆テーマ

午前の部：

永田泰弘（環境色彩研究会会員）

「一人でもできる景観色彩基準の提案」

午後の部：

金銅久美子（環境色彩研究会会員）

「チグハグなイメージを与える色の使用に関する報告」

杉山朗子（環境色彩研究会会）

「最近のまちの色―白黒＆高彩度」

伊藤　幸（環境色彩研究会会員）

「社会問題である空家等の再生に係るまち並みの色彩」

（次ページに話題提供者写真掲載.）

◆参加人数：午前の部，午後の部ともに30名程度

◆「試験的WEBミーティング」について

「試験的WEBミーティング」は，コロナ禍で思うような活動ができなくなった環境色彩研究会の行事として始まりました．環境色彩に関する話題を気楽に語り合う，研究発表会よりはカジュアルで気楽な意見交換の場として，話題提供：15分～60分，意見交換会：60～90分程度の時間配分で開催しています．現在の環境色彩研究会を見ていただくために，研究会の行事

を若干バージョンアップして，研究会旬間（研究会大会）の企画といたしました．

◆反省点と今後の展望

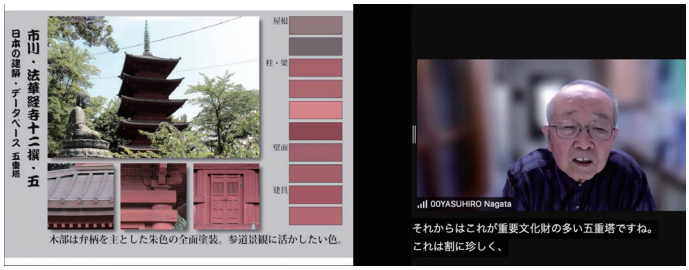
最後に，今回の企画に関する反省点をまとめ，今後の研究会大会に環境色彩研究会がより良い形で参加できる方策を探りたいと思います．

一番目の反省点は，ZOOM ミーティングにスムーズに対応できなかったことです．2020 年度の環境色彩研究会研究発表会で ZOOM を使用して，トラブルなく実行できました．幹事会も ZOOM 上だったので，それなりになれていると思っていたのが，大きな間違いでした．ZOOM を使いこなしていると自信を持って言えるようレベルアップすることが必要です．環境色彩研究会の行事としての試験的 WEB ミーティングは 2022 年度も継続する予定です．経験を積み重ね，対面の代替としてではなく，ZOOM を含む WEB 上のならではのイベントを提案したいと思っています．

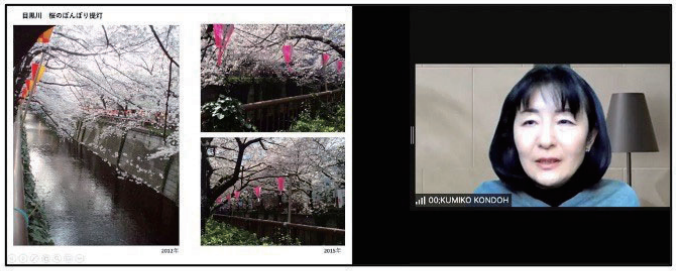
二つ目は，今回取り上げた話題が研究会旬間参加者の皆様にどの程度興味を持っていただけたかはなはだ心もとない点です．ユニバーサル・スタジオ・ジャパンの見学会を行った際にはパレードにもアトラクションにも興味を示さず，建物壁の色ばかり眺めていました．かなり偏った関心を持つ研究会であることを自覚した企画を練りたいと思っています．

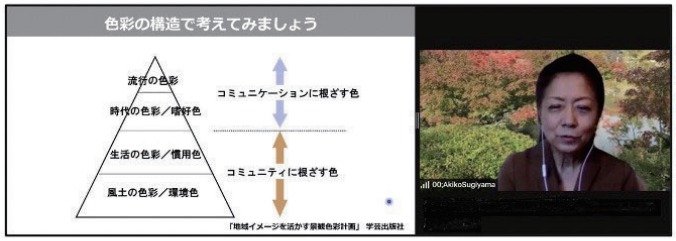
以上の反省点をふまえ，次に研究会旬間（研究会大会）に参加する際には，他の研究会の方々にも関心を持っていただける，さらに言えば集客のお役に立てるような形をとりたいと思っております．

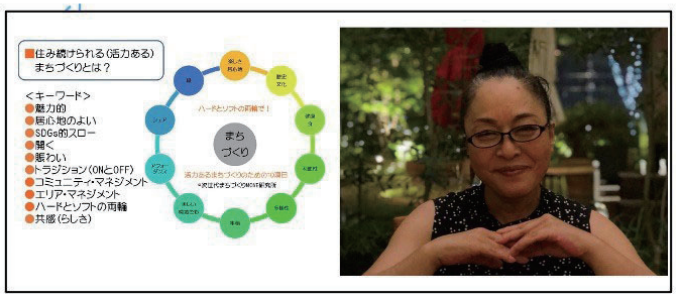
（萩原京子　環境色彩研究会）



午前の部







午後の部

■謝辞：オンライン開催を可能にする「バーチャル会場」の実現について

本大会は，学会 Web サイトの上に設けられた，参加登録者だけがアクセスできる Web ページである「バーチャル会場」上で実施されました．これは昨年度の全国大会以来，日本色彩学会行事のオンライン開催を支えてきた技術であり，その実現にあたっては，歴代の広報担当理事，学会事務局，ならびに川澄未来子先生の多大なるご尽力のもとに実現されていることを，ここに記して会員各位にお伝えするとともに，謝意を表します．なお，本大会のバーチャル会場作成には，千葉大学大学院学生の八木大地さんに制作補助をお願いしたことを合わせて記し，謝意を表します．

（鈴木卓治）

令和３年度研究会大会実行委員会（氏名五十音順）：
大住雅之（測色研究会），川澄未来子（大会 Web ページ＆バーチャル会場担当），坂本隆（感性・データ科学・コスメティクス研究会），鈴木卓治（画像色彩研究会，実行委員長），萩原京子（環境色彩研究会），羽成隆司（美しい日本の色彩環境を創る研究会），祖父江由美子（くらしの色彩研究会），眞鍋佳嗣（視覚情報基礎研究会，学術委員長），溝上陽子（色覚研究会），三本由美子（色彩教材研究会）．